

日本社会事業大学同窓会×社会福祉学会

「就活・全国フェアin社大」 の参加団体募集について

同窓会では日本社会事業大学社会福祉研究大会(社大福祉フォーラム2018)に参加する学生の方を対象とした「就職フェア」の参加団体を募集します。

■開催日時／平成30年6月23日(土)

11:00開場 12:00開始 16:30終了予定

■会場／日本社会事業大学A棟大講義室(又はロビー)

■参加団体／15法人・施設程度 ※出展料不用

※定数を超えるお申し込みがあった場合は、【抽選】により参加団体を決定させていただきます。

※団体の他に「同窓会支部コーナー」が設けられます。

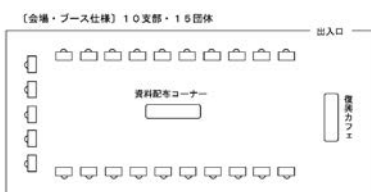
■応募資格／同窓生が法人役員や施設長となっている団体

■会場・コーナー仕様(予定)

●長テーブル1台

●イス5脚(うち団体用2脚)

●壁面団体名サイン1枚



■内容

13:00~13:45 団体プレゼン 1団体3分×15団体で実施します。

14:00~16:30 合同就職面接会、団体情報の提供、採用計画の説明をお願いします。

■目標来場者数／200人

■応募期間／平成30年3月1日(木)~3月30日(金)

■参加の可否／参加の可否は、4月末までを目安に郵便等にて連絡します。(応募者多数の場合は、抽選)

※参加できない場合でも、資料配付コーナーをご利用いただけます。

■交流・懇談会、教員紹介

17:00~18:30 生協食堂 ※参加費不用



同窓会が求人情報の収集をサポート



■申込先は次のとおりです。

参加希望団体の方は、同窓会事務局に「参加団体名、申し込み同窓生名・役職等(当日の参加も考慮してください)」を連絡ください。

FAX:042(496)3051 E-mail:kouyu@jcsu.ac.jp



社会福祉学会の同窓会事業案です。

学会とのコラボによる ○就活・全国フェアin社大
○同窓会東京支部の卒業生によるソーシャルワーカー実践報告企画 ○卒業生・在校生によるライブパフォーマンス
○交流・懇談会などを企画します。



福祉現場にいるOB・OGが皆さんの就活をサポートします。

同窓会×大学
パートナーシップ推進

全国フェアイベントポスター
制作／1年中吟子

初の「同窓会就活フェア」Uターン者

福祉計画学科 福祉経営コース

松川 真子さん(北海道函館稜北高等学校出身)

同窓会の就活フェアで進路先を決められました...

初めて3年次に就活フェアに参加した時は進路について地元に戻ることにしか考えていませんでした。そこで就活フェアで知った障害分野の「はるにれの里」を春休みに見学させていただいたことがきっかけで進路の選択肢の一つになりました。実際の就活では、東京の法人と地元の函館の法人とはるにれの里に応募し、内定をいただきました。

応募の決めては?

実習の経験から自閉症と発達障害の支援に関心がありました。就職先のはるにれの里は、この2つに特化した支援をしていることや、研修制度が充実しているため安心して仕事を続けられそうなことから応募いたしました。そして、同じ職場で活躍しているOB・OGがおり、「同窓生のいる職場で働く」ことにも魅力を感じました。

Uターンを考えている後輩へのメッセージ

Uターンは就職先の見つけ方など不安も多いと思います。だからこそ就活フェアや学生支援課を利用して情報収集や相談をして不安を解消されるといいと思います。また4年生は多忙なので、早めに就職・卒論・国試の計画をすることがお勧めです。😊



松川 真子さん(左から2人目)



8月26日

茨城県支部

初めて在学生2名が出席

茨城県支部交流会・総会(水戸駅エクセルホール)



9月30日、10月1日

市民公開セミナー & 秋季セミナーを開催
(美唄市総合福祉センター)

北海道支部



10月28日 学部23期同期会



JCSW 日本社会事業大学

1979 年度生同窓会通信 vol.3

11年ぶりに同窓会を
開催しました。

2017/10/28(土) 南国酒家原宿本店

福島県支部

12月2日・3日

セミナーの記事が
福島民報紙に掲載されました。
福島県支部総会・セミナー(杉妻会館)



10月28日・29日

第48回社大祭

～灰になるまでhighになれ～



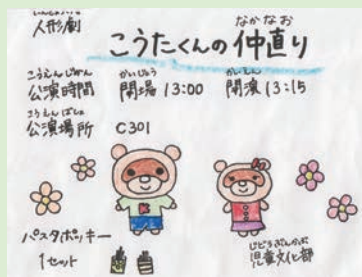
渋谷清瀬市長に
ご訪問いただきました



華道同好会ちろる



花展



児童文化部

大先輩である藤田洋三さん(学部5期)が激励にやってきました。児童文化部は56年の歴史があるそうで1961年の合宿写真を届けていただきました。



50年前のクラブ・サークル活動
(出典:教学社大学別入試シリーズより)

<クラブ・サークル活動> 体育関係のクラブは野球、テニス、卓球の3つだけ、あとの大部分は文化サークルである。一般の大学では前者は半数ずつ、あるいは運動部のほうが多いのに比べて、これは本学の大きな特色といえよう。また社会福祉に関連した研究会や社会奉仕活動グループが圧倒的に多いが、ここにも本学の学生のまじめさと熱心さがよくうかがえる。現在活躍中の文化サークルには次のようなものがある。

文化部 文芸部、児童文化部、観音寺合唱団、マンドリン、部活動部、CSW (キリスト教と社会事業を語る会)、新聞部、「アド」(演劇)、レクリエーション研究会、身体障害者問題研究会、小岩セツメント、たけのこ(セツメント)
同好会 精神問題研究会、美術同好会、社会問題研究会、朝日新聞を守る会、夢真同好会



創作同好会てふてふ

12月17日

思い出ファッションショーを開催

たんぽぽさーくる



ご高齢の方の思い出のある服をご本人にきていただき、その思い出を紹介することで参加者と共有し、全員で同じ思いを楽しんでいただくことで地域全体を盛り上げるという企画です!



11月3日

第27回いたるまつり

子ども学園



2017.11.03



新入生メンバーの歓迎会です(上が2015年4月。下が2017年のものです)



山の子会

楽しめるレクをみんなで企画

山の子会って??

飯能にある知的障がい者施設で月に一度レクリエーションを行っています。サークルの歴史は約50年あり、現在のメンバー数は14名と大学のボランティアサークルの中では小規模です。レクはみんなで1から企画し、準備は職員の方にも協力いただいています。主な参加者は成人部の利用者の方ですが、近年は児童部が加わったことで、活動の輪が広がっています。

活動メモ 2017年

4月 ボーリング、ちぎり絵
6月 紫陽花作り
7月 夏祭り
10月 運動会
11月 学園祭
12月 クリスマス会



紫陽花作り。利用者の作品です。



2015年学園祭。「やまのこ」ワッペンを自作しました。右下が代表の人見です。



学園祭へ模擬店出店。
メニューはプリンアラモード。
ゼリーやプリンに
トッピングして提供!!



ちぎり絵に挑戦! 利用者が毎回いろいろな作品を作成します。



夏祭り。
参加者がかぶる
お面の見本を学生が
作成します。

●これからの活動

児童部の参加により幅広い年齢層に楽しんでもらえるようなレクリエーションの企画をめざしています! また、活動がマンネリ化しないように多様なイベントの企画にもチャレンジしていきます!!

(サークル代表 人見祐加)

母校の支援と同窓生のネットワークを生かすため、あなたの同窓会への参加をお待ちしています。

BBSってなに？

社大BBSは日本BBS連盟に所属する団体です。BBSはBig Brothers and Sistersの略で非行を犯した少年少女たちに兄や姉のような存在として一緒に悩み、学び、楽しむ活動を行っています。

活動メモ

月1回 研究会
月2回 子ども食堂
年1～2回 更正保護関連施設への見学
10月 カレーの会



メンバー紹介／私たちは主に二年生一年生を中心に活動しています。元気な女性が多く毎回楽しく活動を行っています。右下が代表の大須賀です。



子ども食堂の写真です。子ども食堂は去年の1月から行っている活動です。月に2回行い季節に合わせての行事などを行っています。



メニュー紹介／この日はクリスマス会でハンバーグを作りました。子ども達も喜んで食べてくれました。

子ども食堂の様子／とても絵を描くことが好きな子で毎回いろいろな絵を描いてくれます。12月の活動でクリスマスにちなんで書いてくれました。



日本BBS連盟で行われた研修会のときの写真です。他にもBBSではいろいろな研修会があります。



BBSの大きな行事ではたくさんの人が集まり男性のBBS会員もたくさん参加しています。



カレーの会という非行少年を対象に一緒にカレーを食べて行う活動です。

●これからの活動

BBS連盟が70周年を迎えこれからさらに活動の幅が広がります。そのなかで私たち自身も成長していきます。社大BBSとしてソーシャルワークに基づく更正保護を学べていけたらと思っています。

サークル代表 大須賀 史紀

茨城県支部

職種グループ分けの交流会を企画

8月26日(土)水戸市で支部交流会・総会を開催しました。交流会は「親睦を図り、仕事での人脈作りをしていくこと」を目的として行いました。職種でグループ分けをして交流しました。私が所属した児童障がい者グループは、児童相談所や特別支援学校に勤務している社会人2名、学生2名、リタイヤ者2名でした。自己紹介の後、支部員同士のつながりで、児童相談所と連携で特別支援学校にサポートがスムーズにできた事例を出しました。学生の方々には、同窓会活動で情報交換をすると仕事にプラスになることを理解していただきました。

森 雅巳



東葛地域同窓会

9月23日(土)千葉県柏市の「吉春」にて、第15回東葛地域の同窓会を開催しました。7年ぶりとなった今回は、名簿を更新して案内した結果、例年の倍以上となる28名で賑わいました。今後も定期的に開催していきます!

堀口 頼章

北海道支部

市民公開セミナー&秋季セミナーを開催

道同窓会より23人が参加、伊藤同窓会顧問、大橋同窓会顧問が来道。開催に当たっては、学部34期の高島さんが現地実行委員長を務めてくれました。(9月30日(土)、10月1日(日))

村上道同窓会会長は挨拶で、とりわけ社会福祉系他大学の方たち及び美唄市の関係者のご協力によりセミナー開催がされたことの意義を強調。

セミナーは大橋謙策先生の記念講演、続いてシンポジウムでは、研究科40期の白井さん(札幌市社協)、地元の越前谷市社協事務局、個人社会福祉士事務所を運営する安田さんが短い時間ながら明快かつコンパクトに、それぞれ報告してくれました。



ボランティアセンター(同窓会室と同室)オープン



ボランティアセンターでできること

- ◆ ボランティア活動支援
サークル・個人の活動サポート
- ◆ 依頼先とのボランティア希望者のマッチング
- ◆ ボランティア情報提供
ポスター掲示・メール配信
- ◆ なんでも相談
初めてのボランティア相談・活動探しのお手伝いなど

★学生スタッフ募集中★



連絡先: 042-496-3059
volunteer@jcsw.ac.jp

1979年度同窓会 11年ぶりに開催

10月28日(土)佐藤久夫先生、元学生課の青木さんにもご出席いただき、北海道、岩手、長野など遠方から参加、旧交を温めることができました。

福祉専門職化に向け、大学カリキュラム改革のまっ只中にいた学生時代。卒業から35年が経過し、その先頭を走る世代として果たして社会福祉は目標とする場所に向かって正しく歩を進めているのだろうか。悩み多き世代も定年まであと3年。東京オリンピックまでのカウントダウンと同時にキャリア最終盤の歩みを進めることになります。

2004、2006年からの長いブランクを経て31名が集う

今回の開催は、2004年(原宿・南国酒家)、2006年(大森・日本海)以来3回目。少人数での開催となった温泉旅館(青梅)での開催を含めると4回目となります。初回は卒業から実に21年を数え、今回も11年ぶりという長いブランクを経ての開催となりました。

去年は社大創立70周年企画が開催され、近い年代の同窓会が活発に行われていたこともあり、79年度生も是非。との松井くんの呼びかけにより、過去2回の呼びかけ人である瀬戸くん、佐藤くん、山本くん、中俣くんらが心となって企画会議を開催、その後LINEでの頻繁で無用に熱い打ち合わせを経て当日を迎えることになりました。



仰天の現状報告、告白相次ぐ

参加者からは、会社立ち上げの苦労話や転職、大病、その他人生の岐路に際しての想いの詰まったひと言メッセージが相次ぎ、思わずホロリとさせられる一幕も。中でも地方都市での暮らしを昆虫観察の趣味で充実させているというKさんの報告には一同大爆笑でした。



福島県支部

五味基金によるセミナー実施

12月3日(日)午前の部の基調講演は大橋謙策先生が「地域包括ケアシステムの現状と課題」について解説。これからの福祉専門職が果たすべき役割の方向性について多くの気付きや学びを得ることができた実り多い講演でした。

午後の部は福島県東北地区の、地域・医療・障害・高齢のそれぞれの分野にて活躍されている4名の方々の実践報告を交えたシンポジウム。分野は異なっても、社会福祉の実践者として根底にあるものは同じであるということ、改めて強く実感させられました。

セミナーの前日には、大橋先生と岩崎同窓会会長をお招きして、県支部総会及び懇親会を開催。

事務局活動報告



10月14日 運営委員会

10月16日 法人・同窓会意見交換

大学とのパートナーシップの推進について、名取新理事長等法人メンバーと意見交換しました。大学と卒業生・同窓会が双方向で努力していくことで母校・社大をさらに発展させていきたいと思ひます。



12月16日 顧問・正副会長・運営委員会合同会議



支部活動の活性化、在校生・同窓生間の交流の促進などについて協議し、同窓会の取り組みを在校生・卒業生にとってもっと身近なものしていくことを確認しました。

◀同窓会活動強化のためのキーワード▶

同窓会総登録数 15,707人 清瀬年代(入学者) 6,419人	 日本社会事業大学 同窓会	会報送付数 8,070部 同窓会の取り組みをもっと身近に
就職などの在学生支援 就活・全国フェア 同窓会支部相談会の開催		会費納入者(約1,500人) 同窓会基盤の強化 会費を納入する若い世代や 通信教育科修了生への参加推進
同窓会×大学 パートナーシップ推進	修学困難学生に対する支援 五味基金の活用 支部推薦入学者に奨学金支給	大学入試広報との連携 同窓会セミナー(地方大会)の活性化 高校・高校生への参加呼びかけ

同窓会費納入のお願い

会報「社大同窓会」を年に2回約8000人の同窓生・約1000人の在校生にお届けしていますが、会費納入者は約1500人とどまっています。母校創立70周年を契機に今後とも同窓会は、卒業生同士の活動だけでなく在校生とも一緒になって、社大教育と実践をつないでいきたいと考えていますので、一人でも多くの方の会費納入をお願いする次第です。
同窓会役員一同



五味百合子女性福祉論集 プレゼント



定価3000円(税別)
A5版 349ページ

先着20名様に「社会福祉と女性というテーマ」を一貫して追いつけた故五味百合子先生(元日本社会事業大学同窓会長・名誉教授)の論文集をプレゼントいたします。婦人保護事業などに関する論考のほか、対談「私の社会福祉事業、事始め」も収録されています。住所・氏名を次のあて先までご連絡ください。

〈郵便の方〉〒204-8555

清瀬市竹丘3-1-30

日本社会事業大学同窓会

〈FAXの方〉042-496-3051

〈E-mailの方〉kouyu@jcsu.ac.jp

韓国同窓会からメッセージが届きました

日本社会事業大学韓国同窓会は、2000年3月に卒業生および在学生、客員研究員など、社事大と関わった人々を中心に親睦を深める会として発足されました。主な活動は会員間の情報交流を通じた安定的な社会活動への支援、母校の学問的背景を発展するための学術活動支援、母校の同窓会員及び教員、在学生などに対して両国の訪問交流活動への支援、社会福祉分野の発展をするための研究調査、学術、出版などのへ支援などです。

現在韓国同窓会支部は、約40人の正会員となっており、年2~3回の定期的な交流を行っています。韓国同窓会のメンバーは韓国社会福祉分野で大活躍しており、大学教員、研究員、行政家、現場実践家など様々な分野で韓国の社会福祉発展のために活躍しております。

この間、第1回韓国社会福祉スタディーツアーを日本社会事業大学と共催で開くことができ、大変嬉しく思っています。このような交流が継続的に行われるように日本社会事業大学と関係を深めていき、更なる発展のために努力をつくし、日本社会事業大学同窓会との関係づくりを築きたいです。

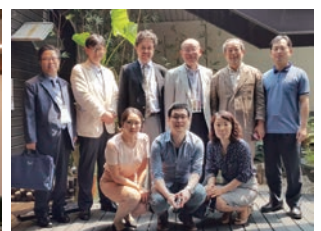
日本社会事業大学
韓国同窓会 事務局長
趙 正祐



2015年 韓国同窓会と
社事大の大橋謙策元同窓会長



2017年 韓国同窓会訪問交流会の記念撮影
(第1回韓国社会福祉スタディーツアー)



SWSD2016 世界社会福祉大会記念 記念撮影
(大橋謙策元同窓会長と大島巖元学長と一緒に)



2017年 韓国文化体験!
(第1回韓国社会福祉スタディーツアー)

地域と利用者様に関わって

高島 史図
学部34期
(1994年卒)

社会福祉協議会から高齢者支援へキャリアアチエングされましたがこれまでの事業展開にどんな思いがありますか？

二十四年前、故郷に思いのあった私は、社大を卒業したら、「津軽海峡より北で働く！」と心に決めていました。大橋謙策先生のゼミ生でしたので、故郷で地域福祉実践をとの思いを持ち、一九九四年四月に社会福祉法人美唄市社会福祉協議会に入局しました。

ボラセン担当となつて除雪ボランティアに力を入れ、年間降雪量十㎝以上の豪雪地帯である美唄で「雪が降れば降るほどボランティア活動が盛んになるまち」を自分の目標にしていたの思い出します。みんなが嫌う雪のおかげで市民活動が盛んになり、支え合いの仕組みの一部となり



公開セミナーin美唄／地元スタッフメンバー

子どもたちへの福祉教育となればと考えコーディネートをしていました。その他認知症家族の会の事務局、食事サービス、移送サービスなど色々なことに携わっていました。二〇〇二年からは美唄市社協が運営するデイサービスセンターに異動となり、生活相談員やケアワーカーを経て二〇三年に同センターの管理者となりました。十年余の通所介護で自分の武器となつたのは長年実践してきたレクリエーションのスキルでした。殊に民謡をやっていたおかげで、民謡レクを実践することができ、利用者様には好評でした。

その後縁あって、隣町の月形町にある月形藤の園より声をかけていただき、二〇一六年より同園の支援課長として勤務しています。月形藤の園は、養護老人ホーム、特養従来型、特養ユニット型の三つの集合施設です。カトリックの修道会が母体である本園は愛の実践を理念とし、敷地内には教会と修道院があり神父様とシスターもおられます。

社大市民公開セミナーin美唄を企画

北海道同窓生は少数ながらも年二回集い、近年は毎年、同窓会に併せて市民公開セミナーも開催しています。二〇一七年度は道央ブロックの私が担当となり

九月に恩師である大橋謙策先生に美唄におこしいいただき「地域のニーズに応えるソーシャルワークをめざして」というテーマで講演やシンポジウムを行いました。

私が住む空知地方は、大阪府の三倍の面積ながら空知管内二十四市町を合わせた人口は約三十万人です。かつては炭鉱と鉄道で栄えましたが、閉山と鉄道の廃止の歴史を経て、過疎化と高齢化による担い手不足が深刻になっています。孤独死、買い物弱者、交通弱者などの課題が山積し、町内会レベルから市町村レベルまで、かつてはできていたこと、成り立っていたことが現在では難しくなり、住民の生活困難解決を担うソーシャルワークの機能と役割がますます問われています。大橋先生やシンポジストの方々のお話が今回のテーマのもとに集まって下さった空知管内の専門職の方々に良いインセンティブとなることを期待しての企画内容でした。終了後に参加者の方々から本当によい話を聞いたとの声をいくつもいただくことができました。

同窓生には美唄の温泉施設を利用して懇親の場を設け、一泊二日の日程をくみました。道内の仲間たちに協力してもらい、同窓生である妻（九三年度生）とわが子を巻き込んだ企画運営でした。

学生時代の思い出



93年、大橋ゼミ20周年準備作業／自治会室にて
左から宮澤、熊谷、菱沼、高島で大橋ゼミの仲間です。

今後の抱負は

社大のキャンパスにはもう二十年以上行っていないませんが、キャンパス内に「アガベの像」がありました。学生当時はあまりその意味を意識していませんでしたが、これまで多くの利用者様や住民と関わり、何人もの利用者様の最期に関わつてきて、あの像の意味と一番大切な価値観は何かに遅まきながら気づくことができました。お金やシステムだけで支え合えることもありますが、ICTが発達して便利になることもあります。しかし人間がどう生きるか、その方の尊厳を守りどう最期を迎えるかということを考え、苦しみを軽くし、無くしていくことは、お金やコンピュータだけではできませんし、私たち専門職一人ひとりの愛なしには成しえないわけです。これから先、アガベを大切にできる実践者、一市民として社大卒業生でありたいと思っています。

プロフィール

高島 史図(たかしま ふみと)

1970年北海道岩見沢市生まれ。1994年日本社会事業大学社会福祉学部社会事業学科卒業。社会福祉法人美唄市社会福祉協議会等を経て、2016年より社会福祉法人藤の園月形藤の園に勤務。現在、養護部・特養部支援課長。社会福祉士、介護福祉士、介護支援専門員。

現在、社会福祉法人美唄市社会福祉協議会評議員、美唄市共同募金委員会評議員、南美唄校区社会福祉協議会理事、月形町地域福祉ネットワーク推進協議会幹事、月形町地域包括支援センター運営協議会委員、月形町総合保健福祉計画策定委員会委員、レクリエーションネットワーク北海道幹事長等。